

2019 年度  
自己点検評価報告書

目白大学短期大学部

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	総括評価シート	組織名称 (評価单位名称)	短期大学部
評価対象年度		2019年度	
記入者 (評価単位責任者)	職名	学長	
	氏名	油谷 純子	

**(1)特筆すべき事項**

**【教育】**

- ①アクティブ・ラーニングを取り入れた授業展開を実施しているが、効果が上がっている。
- ②授業参観(教員相互での実施)も定着した。今年度は学科長、教務委員、特命学長補佐、学長で全教員の授業参観を実施した。
- ③資格取得は順調に推移し、秘書検定1級1名、準1級3名、サービス接遇検定1級2名、準1級に4名の合格者を出すことができた。国内旅行業務取扱管理者に合格者も2年連続、リテールマーケティング1級合格者を毎年輩出することができた。製菓学科においては製菓衛生師国家試験に残念ながら1名不合格であった。
- ④基礎学力の向上(英語)を目的としてリメディアル教育としての公文式英語学習(2018年度から)を引き続き実施した。
- ⑤スタディ・アブロードは2年目でシンガポールでの実施であった。
- ⑥歯科衛生学科は学科開設の初年度であり、学生の教育に関して熱心に取り組んだが、学習成果の評価に関しての基準が定まっていなかった。今後の課題である。

**【研究】**

- ①学会発表:6件、論文投稿:8件、書籍等出版物:1件であり少しずつではあるが研究に対する姿勢が積極的になってきている。
- ②短期大学部のFD活動として、構成員全員による研究発表を2018年度続き実施した。新しく発足した歯科衛生学科教員の発表は新鮮であり、学科間の教員の専門を知ることができ有意義であった。

**【学生指導】**

- ①学生個々人の出席、成績、就職活動等の状況を学科FD 学科活動として、教員で情報の共有化を図った。出席不良者、退学者防止に効果を上げている。
- ②インターンシップへの参加を促し、ビジネス社会学科ではほぼ全員、他学科においても多数の学生に体験させることができた。
- ③桐和祭、スポーツフェスティバルなどの学内行事に参加することにより学生生活の幅を広げる取り組みを推進した。

**【社会貢献】**

- ①短大主催の地域貢献として「公開講座」を実施し、多くの参加を得た。
- ②学会活動では、会長、理事、支部運営委員などでの学会活動の業務を担った。
- ③高校への出前講座、地域への講座の講師などを務めた。
- ④包括連携先の西武信用金庫、社会法人三篠会とのイベントへの学生、教員の参加、東京都洋菓子協会の活動への協力等を実施した。「京王プラザホテル」「CERES高田馬場」などの新規の連携先を開拓することができた。

**【組織マネジメント】**

- ①学科編成の変更(ビジネス社会学科と生活科学科の統合)を受けての教員、助手等の業務の効率化を図った。
- ②効率的な組織運営を試みて会議の議題の事前配布等を実施した。
- ③学科長連絡会を実施し、学科間の意思疎通を細やかに図った。
- ④構成員の計画的な業務遂行、PDCA則りを遂行することに注力するように努めた。

**(2)今後の課題**

**【教育】**

- ①基礎学力の向上を引き続き実施するため、事前・事後学習の課題をより具体的に学生に徹底させた。英語力の強化は目標に到達せず、今後の課題である。
- ②ビジネス社会学科のカリキュラムが生活科学科の内容を取り込んだものとなっているため、学生に混乱のないよう指導を徹底する。
- ③学力レベルの差は少しずつではあるが縮小しているが、学力の高い学生を伸ばす方策を検討する必要がある。
- ④生活科学科の募集停止に伴い、修業年限不足の学生1名が2020年度半期までの在学となった。順調に卒業を迎えられるようサポートをする。

**【研究】**

- ①短期大学部紀要への投稿を促し、充実した紀要の発行を目指す。
- ②競争的資金獲得を目標とする。
- ③教育研究を共同で行う体制を構築する。
- ④歯科衛生学科は開設年度であったため、研究活動においてはあまり活発ではなかった。多くの専門の教員が所属している強みを活かし、今後研究活動を活発化させる。

**【学生指導】**

- ①出席不良、中退予防に注力する。
- ②学力不足の学生への個人的な指導を強化する。
- ③予約型奨学金を獲得し入学した学生の成績を注意深く見守り指導を行う。また、経済的困難な学生を把握し、細やかな相談に乗る。
- ④歯科衛生学科は必修科目が多く、クラブ活動等の学内の活動に参加することが時間的制約で難しい状況である。ボランティア活動等、課外活動のチャンスを作ることを今後検討する。

**【社会貢献】**

- ①産学共同に向けて学科、短期大学部として活発な活動を目指す。地域社会に知見を貢献する準備を行う。
- ②公開講座を引き続き実施し、動員数を増やす方策を検討する。
- ③地域との交流に向けて学生の力を十分に活用できる仕掛けを構築する。
- ④歯科衛生学科は地域との連携活動を重要にしていきたい学科であるので、今後活動を推進する。

**【組織マネジメント】**

- ①効率的な会議運営を行う。事前資料配布等の工夫をする。
- ②提案型の構成員を育てる方策を検討し、実施する。情報の共有を重点課題とし、委員会の報告をタイムリーに行う仕掛けを構築する。また、短期大学部固有の委員会の統合をおこなう。
- ③歯科衛生学科と既存学科との協働を積極的に行う。

**【その他】**

- ①新型コロナウイルス感染症が広がってきている現状を踏まえ、授業の方法、その他の付随事項の検討、実施を速やかに行う必要がある。
- ②学生募集に教職員全員が力を合わせ定員確保に努める。
- ③PDCAにのっとり、より効率的な運営を目指す。
- ④学生募集の環境がますます厳しくなると予想されるので、短期大学部の教育、研究等をより効果的に発信する。また、入試広報に働きかけ、より一層募集活動を強化する。

目白大学・目白大学短期大学部 <b>自己点検評価</b>	学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	生活科学科
---------------------------------	----------	--------------	-------

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
教育	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①主な検定の取得状況            サービス接遇検定1級に2名、準1級に4名、リテールマーケティング検定3級に5名、日商簿記3級に1名、秘書検定1級に1名、2級に1名、日本語検定準2級に1名、MOSに3名：合格            ⇒2019年度はサービス接遇検定1級に2名、秘書検定1級に1名の合格者を排出したことが特筆できることである。</p> <p>②スタディ・アブロード            2019年度はシンガポールでのスタディ・アブロードを実施し、生活科学科2年生2名が参加した。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①2020年度は過年度生1名のみの在籍となっている。この学生がスムーズに卒業できる体制を整える。</p>
研究	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①学会発表・論文投稿            学会発表：1件（日本食育学会1件）            論文投稿：1件（短期大学部紀要1件）            ⇒2018年度は学会発表、論文投稿ともになかったが、2019年度はそれぞれ1件ずつ発表と投稿をすることができた。</p> <p>②科研費及びその他の競争的外部資金獲得            科研費及びその他の競争的外部資金獲得も今年度はなかった。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①論文投稿において紀要などの学内だけでなく、学会誌への投稿を増やす。            ②科研費の獲得が2019年度はかなわなかったため、次年度の獲得を目指す。</p>
学生指導	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①生活科学科生全員が卒業できることを目標とした。数名の困難学生のフォローを重ね、結果的には休学していた学生以外は全員卒業認定されたので目標を達成することができた。            ②生活科学科の就職も100%と例年以上に良い結果を出すことができた。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①1名の過年度生も春学期で卒業となるため、無事に卒業できる体制を整える。</p>
社会貢献	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①有機野菜を活用した食育活動について、生活クラブ生協、栃木県開拓農協より依頼を受けて共同研究を計画した。            また、2019年度はビジネス社会学科と共同で下記の講座を実施した。            ②短期大学部主催「公開講座」にカフェフードの講座を開催した。            ③高校生対象「体験実習」でカフェフードの講座を開催した。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①2019年度も実施した産学協同を来年度も実施する。            ②学会活動（役員や大会の実施等）の充実を目指す。</p>
組織マネジメント	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①1年生担任は、多数の人数を抱えながらのクラス運営となった。また、生活科学セミナーについては非常勤講師が担当するクラスもあり、専任教員、助手と連携をとりながら進めていった。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①新年度はビジネス社会学科との合同での組織体制となる。            1名の過年度生も春学期で卒業となるため、無事に卒業できる体制を整える。</p>
その他	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①生活科学科の最終年度となる。1名の学生が満足して卒業できるように指導とフォローを行っていく。            ②2019年度にビジネス社会学科と合同でホームカミングデーを実施したがたくさんの卒業生が来校してくれた。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①生活科学科自体は停止となるが、卒業生とのつながりを強化する。それにより、在校生の就職先の確保や、知人の入学促進に結びつける。そのための手段として「ホームカミングデー」を引き続き実施していく。</p>

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	製菓学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①製菓衛生師関連科目に関しては、残念ながら目標としていた全員合格が達成できず、授業内容や試験前の補講の在り方も含め再検討の必要性を感じる。</p> <p>②学生が主体的に動くような雰囲気づくりを進めることで、実技課題の完成度は底上げされていると感じる一方で、必修の講義授業でも学生の興味喚起に努めているが、学生の個人差は埋められていない。</p> <p>③製パン実習授業に関してはタイムスケジュールなどの見直しにより、円滑に授業を進めることができた。</p> <p>④和菓子2年では実習の基本が理解できていない学生が昨年度より多く見受けられた。個人作業による作品作りを多くして技術の向上を目指している故個人差がはっきり出た。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①製菓衛生師コースの学生の熱意や取り組み姿勢、学力レベルにおいて個人差が大きくなってきていることは課題である。</p> <p>②教員相互に連携し、授業時の様子や、出欠状況、その他学生との面談を行い、学生動向のケアを行ったが、1年生1名退学、そのほかほぼ出席できない状況になった。2年生では1名が欠席超過により再履修となる学生がおり、ともに課題である。</p>			
研究	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①オープンキャンパスでの学び体験、体験実習等新しいメニュー内容に取り組んだ。</p> <p>②自己の技術の探求と研鑽、また学生へのコンクール出品の意欲喚起を目標とした「ピエスモンテ」の製作には至らなかった。</p> <p>③日本食育学会学術大会にてポスター発表、同内容で目白大学短期大学部貴陽56号に単著論文を投稿した。</p> <p>④昨年研究発表で報告した「針」を用いた「練切」作成技法をゼミの課題に取り入れ学生に指導した。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①製パン、蒸しパンである「マーラーカオ」をオープンで焼成し販売したいとの依頼があり、テストベーキングを行ったが製品化には至らなかった。</p>			
学生指導	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①今年度も1年次春学期での中退者が1名出た。入試区分は一般入試であった。</p> <p>②製菓衛生師国家試験は、初めて不合格者が1名出てしまった。2年連続100%合格により学生側の対策講座に対する慢心があり、それを払拭できなかったことが一因として考えられる。</p> <p>③進路指導については製パン分野での新規の就職先を開拓することができた。</p> <p>④学生との距離が縮まることで、授業の限らず2年次の進路相談など細やかな指導につながった。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①就職に関しては早期より声掛けをして活動を促したが、そもそも活動をしない学生が見受けられた。</p> <p>②就職活動支援に関しては、目標としていた100%には至らず（3月上旬現在）、特に就職意欲の低い学生への指導、支援は課題である。</p>			
社会貢献	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①包括連携協定先である西武信用金庫との連携事業、第13回東京物産・逸品市のタブロイドチラシに各学科1年生が食レポとして掲載されたほか、当日の販売にはボランティア8名が参加した。</p> <p>②株式会社そごう・西武/西武池袋本店主催の「真夏のスイーツフェスタ」内での「お子様向けお菓子教室」イベントへ参加した。学生4名が参加しマジパン細工の技術指導をした。</p> <p>③短大「公開講座」は「製パン」を予定通り実施した。同時に学科の存在と製パン全般の指導と周知は図れた。</p> <p>④本学ビジネス社会学科の専門科目「ビジネスプランニングⅡ」で行われた地域活性化プロジェクトで販売した商品開発に参加した。テーマから梅にちなんだ菓子の商品化を考え試作をし提案した上で学生が選びネーミングした「梅ちゃんまんじゅう」の製造をした。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①地域貢献として計画していた「親子体験実習」、東京都洋菓子協会の活動として例年実施していた「親子ケーキ教室」は感染症拡大の影響で中止になった。</p> <p>②西武百貨店のイベントは「お菓子教室」以外の参加ブースもあり次年度以降も継続するなら早い時期での計画、準備が必要である。</p>			
組織マネジメント	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①学科ブログ管理運営については例年同様実施した。</p> <p>②入学者募集を目的とした「体験実習」は継続実施、バレンタイン実習は数年ぶりに25名を超える参加があった。</p> <p>③次年度に向け人事が大幅に変わることによって学生に不利益が生じないように注意していく。</p> <p>④ハラスメント防止委員会、調査委員会の一員として9回関係者への聞き取りに出席した。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①入学者定員確保に関してはさらなる対策が必要である。</p> <p>②学科所属の教員が大幅に変わるので円滑な運営ができるよう心掛ける。</p>			
その他	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①製菓学科教員が担当している各委員会、センター委員は滞りなく務めている。</p> <p>②包括連携協定先である米屋株式会社を訪問し、インターンシップは継続実施しつつ、今後の産学連携商品開発については小規模プロジェクトとして検討していくことで合意した。</p> <p>③桐和祭を機に新宿区立北新宿第二地域交流館の職員、利用者との交流を持った。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①短大3学科が連携をしながら存在をアピールしていく必要がある。</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	ビジネス社会学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①主な検定の取得状況 サービス接遇検定準1級に19名、リテールマーケティング検定1級に7名、2級に13名、日商簿記検定3級に2名、秘書検定準1級に2名、2級に10名、MOSに10名、国内旅行業務取扱管理者に2名：合格 ⇒2019年度は国内旅行業務取扱管理者に2年連続で、リテールマーケティング検定1級の毎年度合格者排出となったことが特筆できることである。</p> <p>②リメディアル教育 2018年度から新たに公文式英語学習を導入し、2019年度もビジネス社会学科1年生7名が参加した。 入学前教育からはじまるメジプロも順調に進んでいる。</p> <p>③スタディ・アプロード 2019年度はシンガポールでのスタディ・アプロードを実施し、ビジネス社会学科1年生2名が参加した。</p> <p>(2)今後の課題 資格取得のさらなる奨励とリメディアル教育「メジプロ（ステップアップコース）」の100%達成を目指す。</p>			
研究	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①学会発表・論文投稿 学会発表：3件（日本ビジネス実務学会1件、秘書サービス接遇教育学会1件、日本体力医学会1件） 論文投稿：4件（北関東体育学研究1件、高等教育研究1件、短期大学部紀要2件） ⇒論文の投稿が昨年度3件から4件と2年連続で増加した。</p> <p>②科研費及びその他の資金獲得 令和2（2020）年度若手研究に1名が申請中である。</p> <p>(2)今後の課題 ①論文投稿において紀要などの学内だけでなく、学会誌への投稿を増やす。 ②科研費の獲得が2019年度はかなわなかったため、次年度の獲得を目指す。</p>			
学生指導	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①2018年度から毎月の学科会議のあとに学生動向調査のためのFD委員会を開き、1、2年生含めての全学生の状況を学科教員全員で共有している。また、共通の情報シートを使用し、ファイリングをすることで学生情報の蓄積を行っている。</p> <p>②1、2年生ともに担任、ゼミ担任が学生と面談することで、個々の学生の状況を把握している。</p> <p>③スポーツフェスティバルや桐和祭などの学校行事も積極的に参加することで、学校への帰属意識を高めている。</p> <p>④1年次のインターンシップはほぼ全員が行い、2年次の就職活動についてはゼミ担任が個々の学生の状況を細かく把握している。</p> <p>(2)今後の課題 ①退学率の低減：昨年度から実施しているFD委員会（学生動向調査）でより細かく学生の状況を把握できるように努めているが、今後も学生の状況を教員間で共有していく。 ②学修意欲の低い学生へのフォロー強化：日々の授業や、メジプロ等を通して、学習意欲の低い学生や、学修能力が不足している学生の発見に努め、FD委員会等を通して学科としてどのようなフォローができるかを検討していく。</p>			
社会貢献	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①学会活動：秘書サービス接遇教育学会（会長）、日本インターンシップ学会（理事）、日本ビジネス実務学会（支部運営委員）など学会活動での主要な業務を担った。</p> <p>②「株式会社インフィニ」や「社会福祉法人 三篠会」、「薬師あいロード商店街」との協賛による地域活性化プロジェクトを運営した。</p> <p>③「CERES高田馬場」や「株式会社京王プラザホテル」など観光・ホテル・プライダビジネスフィールドを中心とした新たな連携を始めることができた。</p> <p>④文京区本郷法人会主催「財務諸表の読み方」の指導を行った。</p> <p>⑤短期大学部主催「公開講座」にカフェフードの講座を開催した。</p> <p>⑥高校生対象「体験実習」でカフェフードの講座を開催した。</p> <p>(2)今後の課題 ①2019年度も実施した産学協同を来年度も実施する。 ②学会活動（役員や大会の実施等）の充実を目指す。</p>			
組織マネジメント	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①毎月の学科会議後のFD委員会を通して、学生の状況を学科の教員全体で把握することができた。</p> <p>②全てのオープンキャンパスに学科の教員全員が参加するなど、学科全体で来年度の学生確保に努力することができた。</p> <p>③昨年度定員数を確保できなかった反省から、高校向け学科資料の作成や高校訪問、高校生向けイベントの実施など、学生確保のための方策を積極的に実行することができた。</p> <p>(2)今後の課題 ①学科新聞の発行やweb個別相談など2021年度の新入生の定員確保のための方策を引き続き積極的に実行する。 ②授業、学生対応、委員会活動、研究活動等以外に、2021年度認証評価受審や新入生確保のための活動など、さまざまな業務が立て込む中で学科の専任教員が一丸となって業務に取り組んでいく。</p>			
その他	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①インターンシップの授業では就職情報サイトの方からの講演や、キャリアデザインの授業ではSPI試験対策を行うなど学科全体で就職に対する意識を高めることができた。</p> <p>②今年度も桐和祭で「ビジネス社会学科ホームカミングデー」を実施し、例年以上の卒業生が集まってくれた。</p> <p>(2)今後の課題 ①定員の確保を目指して、あらゆる手段を講じる。具体的には、総合型選抜1期、2期で多くのエントリー数を確保する。 ②卒業生とのつながりを強化する。それにより、在校生の就職先の確保や、知人の入学促進に結びつける。 そのための手段として「ホームカミングデー」の充実を目指す。 ③認証評価受審に向けてワーキンググループを中心にスケジュールに沿って進めていく。</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	歯科衛生学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①当該年度の開講科目は1年次生の概ね29科目であり、開講科目の円滑な実施はもとより、学習意欲や歯科医療従事者としての意識を高めるとともに、各自の学習方法の構築を支援することに学科として意を尽くした。</p> <p>②自学自習、復習や予習による理解の整理に留意した講義資料や配布資料、視覚教材等の作成・活用を学科全体で工夫、心がけた。</p> <p>③時間の許す限り毎回の講義の中で教員各自が様々な方法により前回内容の確認と振り返りを試みて学生の理解度の検証に努めた。</p> <p>④講義で示される様々な事象をそのまま受け止めるだけでなく、自らの目で見、考えることの必要性、大切さを繰り返し強調することに留意した。</p> <p>⑤解決すべき問題点を自ら見つけ出す視野、考察力及び態度を身に着ける努力の大切さを繰り返し説いた。 このことは、学生のグローバルな視野・思考の育成の一助となると考える。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①概ねシラバスに記載した評価法にのっとり成績評価は実施されたが、より客観性や厳密性を持たせた評価を心がけてさらなる検討の必要性を感じる。</p> <p>②次年度より臨地・臨床実習が開始されることから、実習指導打ち合わせや地域歯科保健活動等を通じて歯科関係団体や保健医療福祉施設と交流を図り、臨地・臨床実習施設指導担当者との連携を進めて円滑な実施に努めるとともに学内および学外実習に一貫性を持たせることに意を尽くす。</p>			
研究	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①新学科開設年度でもあり研究成果は全体として低調であった。研究成果は毎年出るとは言いがたいが、少なくとも数年間ごとに論文及び学会発表等の実績に結び付いた公表努力が望まれる。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>②短期大学部において教育の質的向上は何よりも教員の研究活動の活性化が不可欠であり、それを支える研究費の確保は教員にとって重要な能力であると考えられる。申請研究や外部研究資金の獲得件数は研究活動の指標の一つでもあり、今後積極的な外部資金等の獲得努力が望まれる。</p>			
学生指導	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①学生が健康と安全に留意し、楽しくそして充実した有意義な学生生活を送ることができるよう支援に努めた。 そのためには、学科の修学支援活動の総括である学科長と各学年3名の学年担当や学生委員、教務委員が緊密に連携して日常的な学生の状況把握と迅速な対応に努めた。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①本学科は必修の授業割合が非常に高く、遠距離通学生も多いことから、積極的な課外活動などを行うのは難しい。 限られた時間を有効に使用して、その中でできる範囲の課外活動やボランティア活動などを行い、有意義な学生生活を送ることは大きな意義があり、可能な限りの修学支援活動の継続を図る。</p>			
社会貢献	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①学会・研究会活動等においては、前年度に引き続き一定の役割を果たすことができた。</p> <p>②産学連携、地域連携、高大連携等においては、学科新設後間もないため知名度が低いうえに新任地でのニーズや活用可能な社会資源の把握等が進まぬこともあり具体的な連携協議や活動につなげることはできなかった。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①超高齢社会を迎え、人々の保健・医療・福祉に対する関心は高く、これらの分野の教育研究を行う本学科は、様々な社会的活動・地域貢献等を通して広く地域社会に寄与できる素地がある。今後は公開講座や産学連携、地域連携、高大連携などに関する課題を整理し、具体的な連携活動につなげたい。</p> <p>②地域社会への貢献は全教員で取り組むべき今後とも重要な課題である。短期大学部を構成する学科はそれぞれ養成職種は異なり、社会との関わり方にそれぞれ違いがあるが、社会に開かれた大学を実現するためにもどのような社会貢献が可能かについて新設の本学科は議論を深める必要があると考える。</p>			
組織マネジメント	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①歯科衛生学科では、専任教員12名の教員体制で、入学定員180名の教育を行う。学科会議が本学科の意思決定のための議決機関であり、すべての専任教員が学科会議の構成員である。開催状況は月例で適切に開催されている。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①学科の教育活動、研究活動をはじめとする諸活動の円滑な運営・実施・進行に関する検討・調整に努める。</p>			
その他	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①学科新設後間もないため知名度が低いこともあって、就業歯科衛生士の不足状況にありつつも、入学定員60名に対する入学者数は低調であった。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①様々な機会をとらえて広報活動を行っている。しかし、他大学の活動に比べて、高等学校の訪問や合同進学相談会への参加など、受験生への直接的なアプローチが乏しい。また、社会人へのアプローチも乏しい。今後一層の広報活動に努力しなければならない。マルチメディアの活用とともに、受験生個々に直接アプローチする広報活動が必要になると考える。</p> <p>②大学説明会の広報は、都内外高等学校への郵送通知や広報誌、ホームページへの広報などによって行われている。内容に関しては講義の体験などより具体的な情報を求める傾向にある一方で、参加者は在校生との交流を求める傾向にあり、また、一層魅力ある企画立案等が望まれるので、今後も在校生の協力は不可欠である。</p>			